

同 時 資 料 提 供

大阪市政記者クラブ

大阪教育記者クラブ

大阪科学・大学記者クラブ

平成25年8月2日

大阪 市 立 自 然 史 博 物 館

担当：学芸課 佐久間 大輔(植物研究室)

電話：06-6697-6222

## ミニ企画展「平成の大津波被害と博物館巡回展 ナチュラリスト鳥羽源藏と後継者たちの残したもの」の開催について

大阪市立自然史博物館では、平成25年8月24日（土）から10月14日（月・祝）まで、ミニ企画展「平成の大津波被害と博物館巡回展 ナチュラリスト鳥羽源藏と後継者たちの残したもの」を開催します。

本企画展は、岩手県立博物館と昭和女子大学が企画して岩手県立博物館（平成25年1月5日～3月17日）、昭和女子大学光葉博物館（平成25年5月15日～6月22日）で開催された企画展「2011. 3. 11 平成の大津波と博物館 -被災資料の再生をめざして-」で展示された資料のうち、陸前高田市立博物館所蔵の自然史標本を中心として再構成したものです。今回は岩手県立博物館・陸前高田市立博物館ならびに公益財団法人日本博物館協会など関係各位の協力で、大阪市立自然史博物館等で修復された自然史標本を、ミニ企画展として展示することとなりました。

平成23年東北太平洋沖地震による津波に襲われた陸前高田市立博物館と陸前高田市海と貝のミュージアムには、陸前高田市の歴史を物語る歴史や考古学の資料とともに、化石や隕石、様々な動物や昆虫、植物、そして貝など自然史標本がたくさん収蔵されていました。これらの自然史標本は、陸前高田出身で明治から昭和初期に盛岡の師範学校などで多くの後進を指導し、「岩手博物界の太陽」と呼ばれた、鳥羽源藏氏の遺したコレクションが基礎となり、後継者たちの活動によって積み重ねられた標本です。

海水と泥にまみれた文化財や自然史資料が、全国の関係者により修復、保存処理の努力がなされ、現在岩手県立博物館などで保管されています。大阪市立自然史博物館も、西日本自然史系博物館ネットワークとともに自然史標本の修復、保存処理に協力してきました。

多くの文化財とともに自然史標本もまたこれまでの町の歴史・環境・記憶を未来に伝える貴重な存在です。ナチュラリスト鳥羽源藏の姿に思いを馳せ、まだまだ復興の緒についたばかりの三陸地方を思い起こすために、また、自然史標本の文化財的な価値を知っていただくためにも、多くの方に見ていただければと考えております。

博物館で開催中の特別展「いきもの いっぱい 大阪湾 ～フナムシからクジラまで～」  
(<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/tokuten/2013osakawan/index.html>) と合わせてご覧ください。

## ■開催概要

- 1 名 称 ミニ企画展「平成の大津波被害と博物館巡回展  
ナチュラリスト鳥羽源藏と後継者たちの残したもの」
- 2 主 催 大阪市立自然史博物館・公益財団法人日本博物館協会・特定非営利活動法人西日本自然史系博物館ネットワーク・特定非営利活動法人大阪自然史センター
- 3 共 催 岩手県立博物館・陸前高田市立博物館
- 4 日 時 平成25年8月24日（土）～10月14日（月・祝）  
午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）  
休館日は月曜日（月曜日が休日の場合は開館し、翌日休館）
- 5 会 場 大阪市立自然史博物館 本館2階イベントスペース
- 6 観 覧 料 常設展入館料のみでご覧いただけます。  
常設展入館料：大人 300 円、高校生・大学生 200 円。  
中学生以下、市内在住の 65 歳以上の方、障がい者手帳等をお持ちの方（付添 1 名を含む）は無料（要証明）。
- 7 会 場 大阪市立自然史博物館  
〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園1-23  
TEL 06-6697-6221 FAX 06-6697-6225  
地下鉄御堂筋線「長居」駅下車3号出口・東へ800m  
JR阪和線「長居」駅下車東出口・東へ1,000m  
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>
- 8 展示資料
  1. 鳥羽源藏・陸前高田市立博物館関連資料
  2. 被災昆虫標本及び修復済み昆虫標本
  3. 鳥羽源藏氏収集他陸前高田市立博物館所蔵 修復済み植物標本
  4. 陸前高田市立博物館所蔵 化石、隕石
  5. 陸前高田市海と貝のミュージアム旧蔵 貝標本
  6. 人面付き石棒など陸前高田の文化財 など約 30 点

鳥羽源藏について・・・鳥羽源藏（1872～1946）は、岩手県気仙郡小友町（現在の陸前高田市小友町）に生まれ、郷里の小学校教員を勤めるかたわら昆虫学、植物学、考古学、地質学、貝類学などの幅広い分野で専門の研究者について学び、多数の標本を収集・作製し、研究業績を残しました。さらに大正11年からは盛岡の師範学校教諭となって多くの後進を指導して「岩手博物界の太陽」と呼ばれ、また宮澤賢治と交流があったことでも知られています。

■ 広報用画像

1. レンゲツツジ

鳥羽源藏氏が1903年に氷上山で採集。

津波で泥にまみれたものを台紙のみ破棄して、標本およびラベルを残して修復したもの。



2. 陸前高田市立博物館蔵の化石標本（アンモナイト類）

陸前高田市矢作町飯森 中期ペルム紀 上八瀬層のものを中心に展示する。



3. 津波の被害を受けたヒメギフチョウの標本

陸前高田市立博物館の被災標本の修復方法を探るために、最初に当館へ試験的に送られたもの。修復後の標本を展示する。



#### 4. 被災した陸前高田市立博物館

同博物館の被害状況調査が始まった当初、2011年4月12日に岩手県立博物館により撮影されたもの。博物館は建物2階天井まで浸水。玄関および展示室の壁ガラスは無くなり、内部には大量の土砂と乗用車までを含む瓦礫が流入していた。



#### 5. 人面付き石棒

5cmほどの縄文時代の考古遺物。

津波の後、がれきの中から発見された。



これらの写真は広報目的でのみご利用いただけます。

ご希望の方は、下記までお知らせください。

大阪市立自然史博物館 総務課 広報担当 長縄（ながなわ） [naganawa@ocmo.jp](mailto:naganawa@ocmo.jp)